

## シラバス

教科	公民	科目	倫理	単位数	2単位	対象	3年 普通・特進
----	----	----	----	-----	-----	----	----------

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>1. 人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p> <p>2. 主題学習を通して客観的で公正なものを見方を育成するとともに、広い視野から思想を考察させる</p>
使用教科書・副教材等	「高等学校 倫理」(第一学習社)、「倫理ノート」(第一学習社)、「最新図説 倫理」(第一学習社)

### 2 学習計画及び評価方法等

#### (1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい・目標	考查範囲
第 1  学 期	1章 青年期の課題と自己形成 ①よく生きることを求めて ②青年期の課題 ③自己の探究 ④現代の青年期	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の特質とは何かを理解する。</li> <li>・自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考える。</li> <li>・青年期の心身の特徴を把握するとともに、青年期の悩みの心理的特徴に気づき、悩むことが自己形成につながることを理解する。</li> <li>・高校生の意識調査の結果を分析し、そこに現れている現代の高校生の特徴を読み取る。</li> <li>・自分自身の心に起こる状態を防衛機制の図にあてはめて考え、ねばり強く欲求を抑制し、調整しながら目標達成を図る必要性を理解する。</li> <li>・生きがいについていろいろな視点から考え、今後の自分の生き方に生かす知識として身につける。</li> </ul>	第1学期 中間 考查
	2章 人間としての自覚 ①ギリシャの思想 1-哲学の形成 2-ソクラテス 3-プラトン 4-アリストテレス 5-ヘレニズムの思想家たち 6-ギリシャの哲学と私たちの生き方	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギリシャの思想家のものの見方・考え方を理解することにより、古代ギリシャの思想は、私たちにとってどのような意味をもつのかを考える。</li> <li>・ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか、両者を比較しながら考察する。</li> <li>・「ソクラテスのことば」から「よく生きることこそ大切である」という彼の信念を読み取る。</li> <li>・アリストテレスの現実主義の立場を、プラトンのイデア論と対比しながら理解する。</li> </ul>	
	②キリスト教 1-ユダヤ教 2-イエス 3-キリスト教の発展	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界で起こっている宗教を原因とする争いを調べ、宗教とは何かについて、意欲的に考察する。</li> <li>・哲学や宗教の意義を考え、先人の生き方を手がかりに、どのように生きていくべきかを学ぶ。</li> <li>・イエスの思想をユダヤ教と対比させて、神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解する。</li> <li>・キリスト教信仰の構造に関心を持ち、キリスト教的な生き方や人間観の特徴を、興味をもって追究する。</li> <li>・キリスト教が愛の宗教であるといわれるのはなぜかを多角的・多面的に考察する。</li> <li>・聖書の文言を味わいながら、イエスの説く教えとはどのようなものであるかを学ぶ。</li> </ul>	第1学期 期末 考查
③イスラーム	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラームはどのようにして誕生したか、ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか、ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解する。</li> <li>・メッカの方向を調べるなどして、イスラームの基本的教義</li> </ul>		

		(六信・五行) を実感する。 ・『クルアーン』を読み、日常の生活で行うことまで規定していることを理解する。	第1学期期末考査	
④仏教 1ーインドの思想文化 2ーゴータマの教説 3ー仏教思想の展開	6	・インドの人々はどのような死生観をもっているかを理解する。 ・ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解する。 ・日本にもっともなじみの深い宗教である仏教の教えを知り、仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察する。 ・「ゴータマのことば」を味わい、仏教の基本である、人間どうしが支えあいながら生きていくという視点を読み取る。 ・ゴータマが説いた縁起や四諦とは何かを理解する。		
⑤中国の思想 1ー中国の思想文化 2ー儒家の思想 3ー道家の思想	7	・中国の人々の自然観・人生観を理解する。 ・陰陽五行や風水など、身近なものにも中国の思想とのかかわりがあることを知り、中国の思想に対する興味・関心を高める。 ・中国の思想は、歴史的に日本にもっとも大きな影響を与えたものであることを知り、私たちの現在や未来にどのようなかかわっているのかを考察する。 ・『論語』のなかの孔子のことばから、中国の思想の根本を読み取る。 ・西洋と東洋の源流にある思想を比較して、人間の生き方について説いている内容の共通点と相違点を調べ、発表や討論をする。		
<b>【課題・提出物等】</b> レポート、ワークノート、課題プリント <b>【第1学期の評価方法】</b> 考査評価、倫理ノート、課題追究学習、課題プリントへの取り組み状況などの割合評価				
第2学期	3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 ①日本の風土と伝統	9	・日本人の精神的特性が、日本の風土とどのように関連しているのかを考える。 ・書籍や聞き取り調査などから日本の神話や伝承に関する諸資料を収集し、古代の日本人がどのような倫理意識をもっていたのかを理解する。	第2学期中間考査
	②外来思想の受容 1ー日本仏教の展開 2ー日本儒学の展開 ③町人意識の目覚めと庶民思想	9	・日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教が日本にどのように伝えられ、どのように変容していったのか、その大きな流れを把握する。 ・法然、親鸞、栄西、道元、日蓮に関する資料を収集し、鎌倉仏教の各宗派の教義や特色を理解する。 ・日本人の価値意識と儒教との関連について理解し、正の部分、負の部分をとともに検討する。	
	④西洋思想との出会い 1ー幕末の思想 2ー明治の啓蒙思想 3ー日本社会とキリスト教 4ー社会思想の展開 5ー近代的自我の確立 6ー近代日本の思想課題	10	・幕末の思想の特質や、文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたかを把握する。 ・日本の近代思想がどのように展開していったかを理解する。 ・日本人のものの見方・考え方のなかで、西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて資料を収集し、国際社会に生きる日本人としての生き方・考え方をまとめる。 ・日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方やあり方について考える意欲を高め、今後の生き方について考える。	

	4章 現代に生きる人間の倫理 ①現代の特質と倫理的課題	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命、環境、家族、情報、国際化などに関する問題を概観し、私たちが取り組むべき倫理的課題について、主体的に考えるためのきっかけ作りとする。</li> <li>・これらの課題が自分の生活にどのようにかかわっているかを理解し、個々の課題について追究していくための問題意識を明確にする。</li> </ul>	
	②人間の尊厳 1ールネサンスと宗教改革 2ー人間性の探究	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊厳にかかわる思想家の思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを考える。</li> <li>・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考える。</li> <li>・先哲の思想の中から、人間の尊厳に関わる資料を収集し、活用する。</li> </ul>	第2学期期末考査
	③近代の科学革命と自然観 1ー近代の科学革命 2ー経験論と合理論 3ー自然観の転換	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代の科学はどのような背景から生まれてきたのかを理解する。</li> <li>・ベーコンやデカルトによる科学的な考え方の特色を理解し、科学技術の発達と自然との共生についての興味・関心を高める。</li> <li>・ベーコンやデカルトの著作を読み、自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観をつかむ。</li> <li>・経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて理解する。</li> </ul>	
	④自由で平等な社会の実現 1ー社会契約の思想 2ー人格の尊厳と自由——カント 3ー人倫と自由の実現——ヘーゲル 4ー功利主義の思想	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代ヨーロッパの社会契約説を通して、民主社会の成り立ちを理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に考察する。</li> <li>・ホブズ、ロック、ルソーに関する資料を収集し、社会契約の思想の違いを整理する。</li> <li>・現在の政治的自由は、ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解する。</li> <li>・カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解する。</li> <li>・西洋近代の思想家たちは、自由の実現についてどのように考えたのか、多角的・多面的に考察する。</li> <li>・ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解する。</li> <li>・功利主義の思想からよく生きるとはどういうことかを理解し、自分自身の生き方につなげる。</li> </ul>	
	⑤人間性の回復と主体性の確立 1ー社会主義の思想 2ー実存主義の思想 3ープラグマティズムの思想	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会主義の生まれた背景とその発展過程、現代の社会主義について考察する。</li> <li>・実存主義が追究した生き方とはどのようなものか理解する</li> <li>・主体的なあり方は、努力をともなう生き方であることを、実存主義の思想から考察する。</li> <li>・略伝や図版を活用して、思想家の人生をたどりながら思想内容を理解する。</li> </ul>	
	<b>【課題・提出物等】</b> 1学期に準ずる <b>【第2学期の評価方法】</b> 1学期に準ずる			
第3学期	⑥現代の思想と人間像	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前節までの学習を踏まえ、現代の思想は、それまでの思想からどのような影響を受け、それらをどのように乗り越えようとしているかを考察する。</li> <li>・フロイトやレヴィ・ストロースらの著作を読み、現代の思想が発見したり注目したりしてきたものは何かを理解する。</li> <li>・ロールズやセンの思想から、私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これからの生き方につなげる。</li> </ul>	学年末考査

<p>⑦生命への畏敬と社会奉仕</p>	<p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践された倫理をつらぬいた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本当の愛とはどのようなものかを理解する。</li> <li>さまざまな思想家の主張をふり返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察する。</li> <li>思想家のことばから、自らの思想をそのままに生き、一生そのようにし続けた生き方をつかむ。</li> </ul>
<p>5章 現代の諸課題と倫理 ①生命の問題と倫理課題 1-脳死臓器移植と再生医療 2-脳死と臓器移植 3-自己決定の尊重と末期医療 ②環境の問題と倫理課題 1-有限な地球環境 2-生物多様性と自然との共生 3-予防原則と世代間倫理 ③家族・地域社会と倫理課題 1-少子化と男女共同参画社会 2-高齢化と地域社会 ④情報社会と倫理課題 1-情報の洪水と情報リテラシー 2-ネットワーク社会と情報モラル ⑤宗教・文化と倫理課題 ④国際平和と人類の福祉</p>	<p>長期休暇中や1学期と2学期の調査終了後に課題追求学習として実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クローン技術、遺伝子組み換え、脳死臓器移植、安楽死と尊厳死、医療における自己決定権などのテーマから、追究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察する。</li> <li>生命をめぐる問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。</li> <li>追究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。</li> <li>地球規模だけでなく、身近なところで起こっている環境問題について調べ、有限な資源を未来の世代にも配分するには何をすればよいか、環境倫理の考え方はどのようなものか、などについて考察する。</li> <li>地球環境問題や化学物質汚染、環境保護活動、循環型社会をめざしたリサイクルなどのテーマから、追究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。</li> <li>追究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。</li> <li>少子高齢社会の問題点を、家族の形態や地域社会はどのように変化してきたか、それらに期待される役割とはどういったものか、などについて考察する。</li> <li>核家族化や少子化の進行にともなう家族関係の変容、男女共同参画時代の夫婦のあり方、高齢者と地域社会のあり方などのテーマから、追究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。</li> <li>家族・地域社会をめぐる問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。</li> <li>追究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。</li> <li>情報モラルに関する問題、情報社会を生きていくために必要な能力についてなどのテーマから、追究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。</li> <li>高度情報化をめぐる問題となっている事例を収集し主体的に選択して活用する。</li> <li>追究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。</li> </ul>

1学期に準ずる  
【第3学期の評価方法】  
1学期に準ずる  
【年間の学習状況の評価方法】  
・年間5回の定期考査60%、課題追究学習の取り組み状況20%、レポート・長期休業中の課題の取り組み状況など10%、授業中の態度・ノートチェック10%の割合で評価する